

平成29年度 第3回公立大学法人公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 平成29年11月1日(水) 13:30~14:40
- 場 所 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 今井正和委員、遠藤由美子委員、小林朋道委員、富岡庄一委員、岡崎誠委員、吉永郁生委員、齊藤明紀委員、北崎寛委員、田中仁成委員、中島廣光委員
[10名/14名]
- 欠席者 尾室高志委員、片木威委員、角紀代恵委員、山本仁志委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 第2期中期目標に係る意見照会について

学長代行者から、第2期中期目標に係る意見照会について、法律で本学の意見を聞くことになっているが正式な意見照会がないため、現在の案に対して本教育研究審議会の意見を伺った。設置者から意見照会があった際は、本教育研究審議会での意見を反映させて設置者に回答することが承認された。

<主な意見等>

- ・地元就職を熱心に進めたいというのであれば、インターンシップが削ってあるが、どうしてか。
 - インターンシップそのものを否定しているわけではなく、設置者案でインターンシップの単位化とあるが、既に単位化してあるのでその部分は削除した。地元企業・自治体との連携でのインターンシップ部分は検討する。
- ・大学案では地域イノベーション研究センターの記載が削除されている。前身の県や民間団体等が作った旧鳥取総研が公立鳥取環境大学に移管したときに、旧鳥取総研の精神は残してほしいということが当時あったことは踏まえてほしい。
 - 大きい大学でもなく、サステナビリティ研究所、地域イノベーション研究センターの役割・目的の重なるところもあるため、整理したいという思いが根底にある。まったく無くすという訳で記載していない訳ではない。記載について検討する。
- ・カリキュラムの改善等を含めた教育内容の充実をたゆまず行うと同時に卒業生の質の向上を図るとあるが、ステップが違う。卒業生の質の向上を図るために、こういったカリキュラムの改善や教育内容の充実を図るものである。教育内容等に関する目標のところは、順番が逆で、正しくはディプロマ・ポリシーがあって、カリキュラム・ポリシーがあって、アドミッション・ポリシーがあるという順になる。また、それぞれのポリシーに点検・改善を行うとあるが、違和感がある。決めたら5~6年はいじらない。それくらい練って作るものである。
 - ご指摘をしていただきましたので、順番や内容を検討し、記載について検討する。

- ・英語教育に関する数値目標で、CEFRのB1にするとハードルが上がると感じるが、検討してあるか。

→ 資料の対応表に、これまでの目標を照らして、B1を設定した。これが結果的にどうなるかは読めない。ただ、特定の試験だけでなく、英語の能力そのものを見ることとした。留学を希望する者はTOEFLに挑戦する訳で、その学生を勘定できるようにした。

3 報告事項

(1) 平成29年度補正予算について

事務局から、紀要のWeb掲載及び冊子発行に係る平成29年度補正予算案件について報告があった。

(2) 平成30年度予算編成方針について

事務局から、平成30年度予算編成方針について報告があった。

(3) 平成28年度公立大学法人公立鳥取環境大学業務実績評価書について

事務局から、平成28年度公立大学法人公立鳥取環境大学業務実績評価書について報告があった。

(4) 公立大学法人公立鳥取環境大学学長代行者に関する規程の制定について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学学長代行者に関する規程の制定について報告があった。

(5) 近況報告

事務局から、入試、就職活動など大学の近況について報告があった。

4 その他

(1) 公立大学法人公立鳥取環境大学次期理事長（学長）候補者の選考について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学次期理事長（学長）候補者の選考について報告があった。

5 閉会